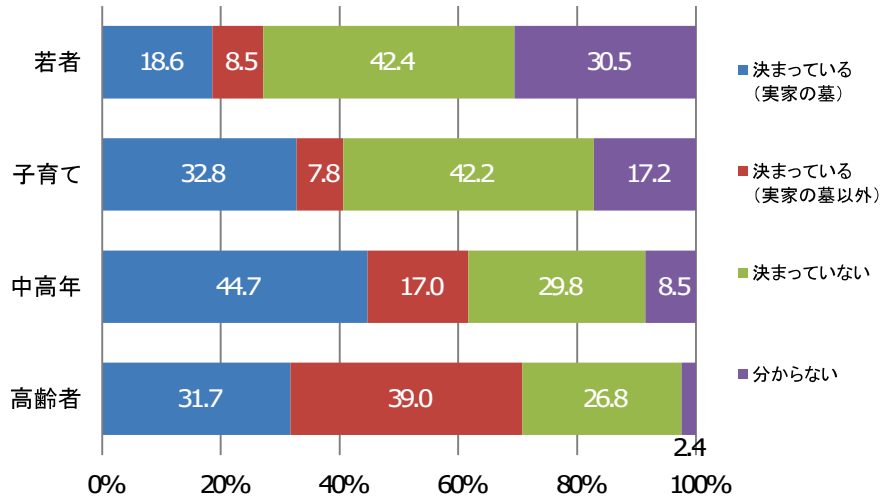
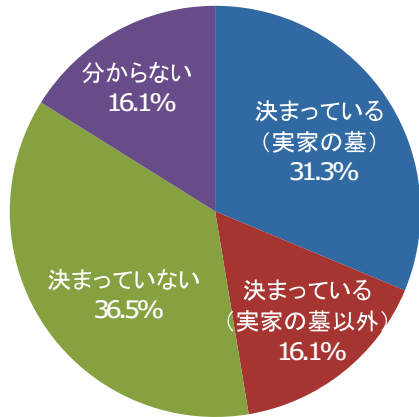


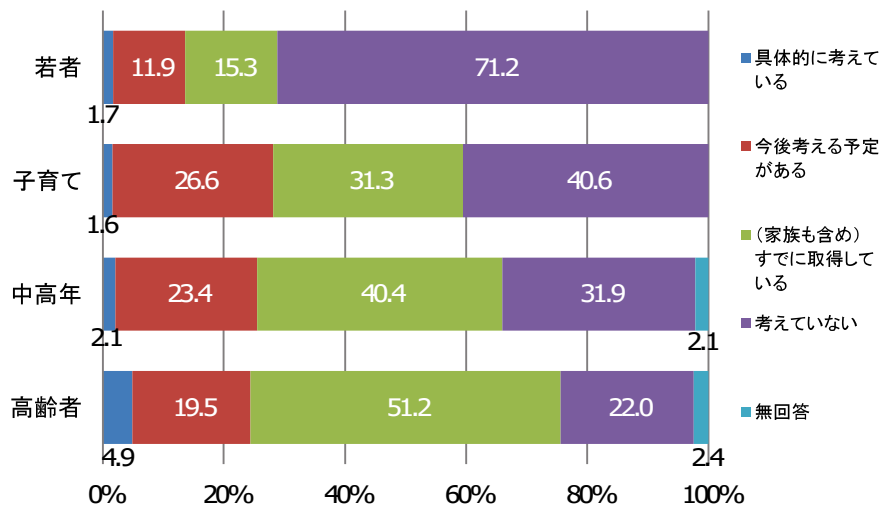
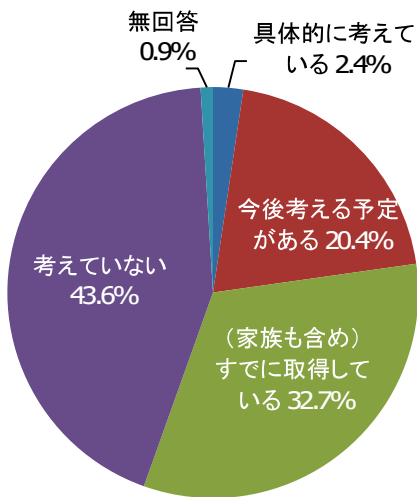
<墓地について>

■問1 自分が入る墓地が決まっているか (N=211)



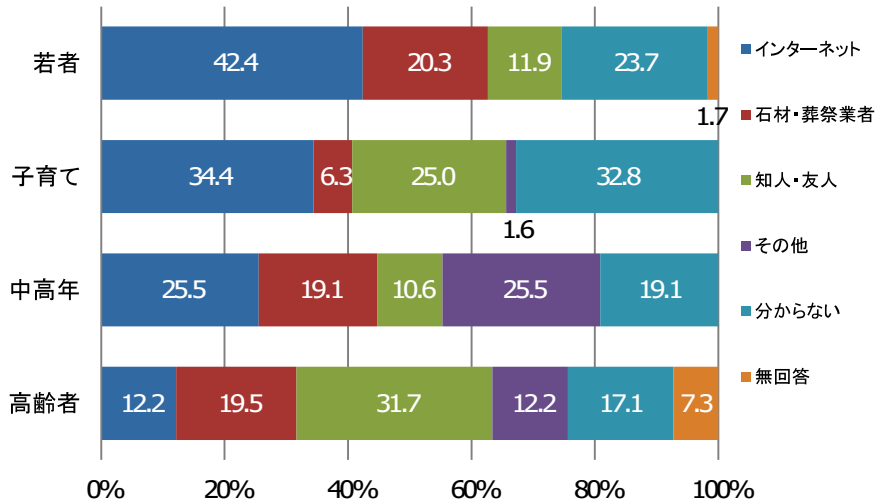
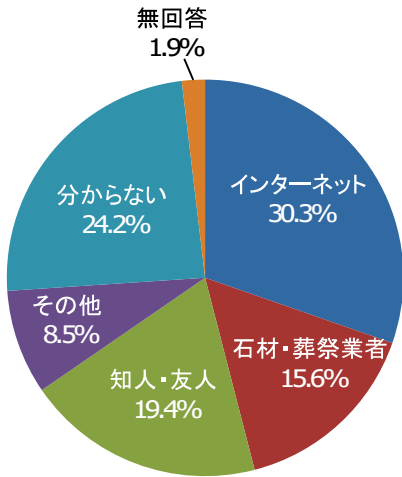
- 自分が入る墓地が決まっているかについては、「決まっていない」が約4割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育てでは「決まっていない」が、中高年では「決まっている(実家の墓)」が、高齢者では「決まっている(実家の墓以外)」が最も多い回答となっています。

■問2 墓地の取得について (N=211)



- 墓地の取得については、「考えていない」が約4割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育てでは「考えていない」が、中高年・高齢者では「(家族も含め)すでに取得している」が最も多い回答となっています。

問3 墓地取得の際の情報入手手段 (N=211)

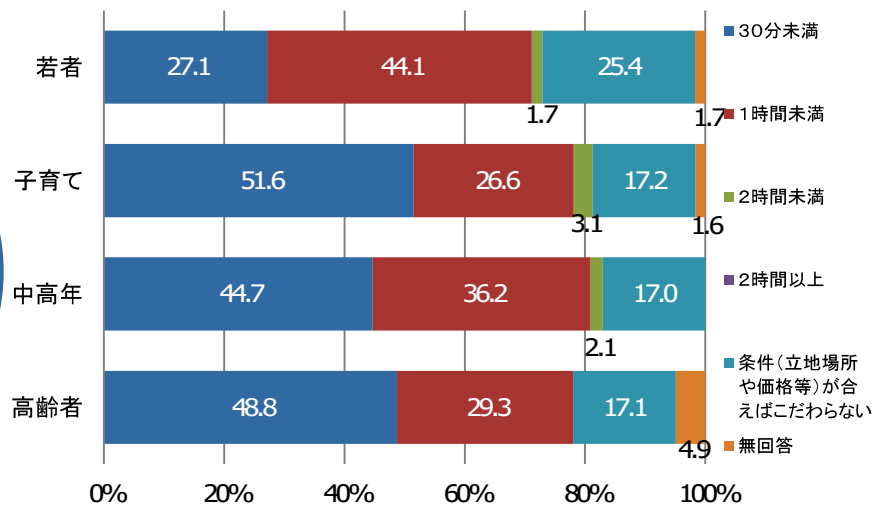
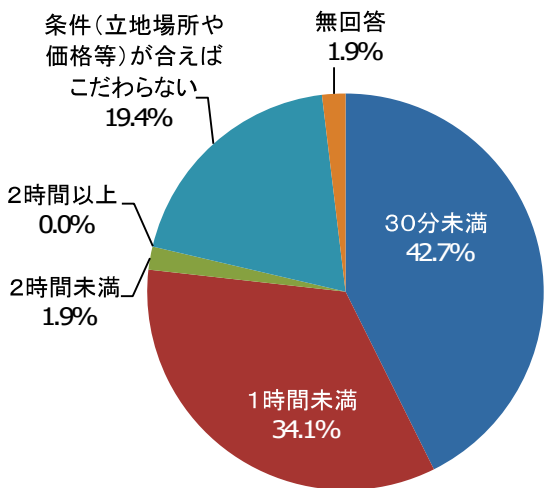


■その他意見

- ・新聞広告、チラシ
- ・寺(菩提寺、地元の寺など)
- ・家族、親戚
- ・市役所

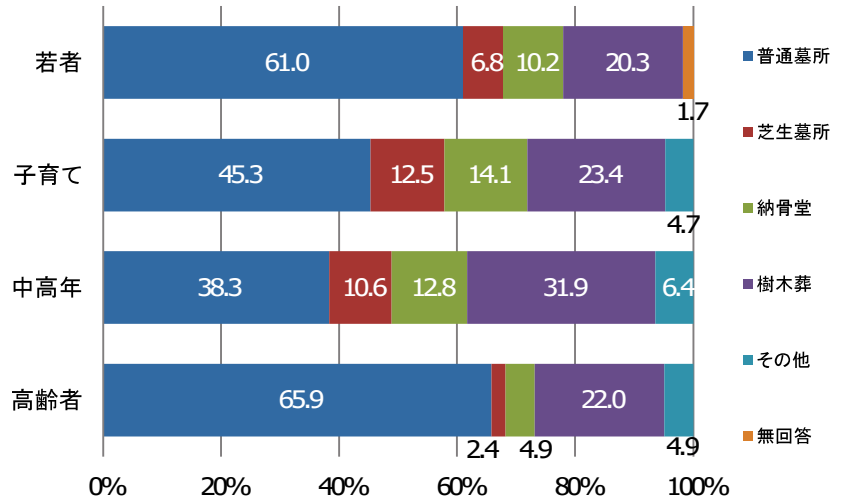
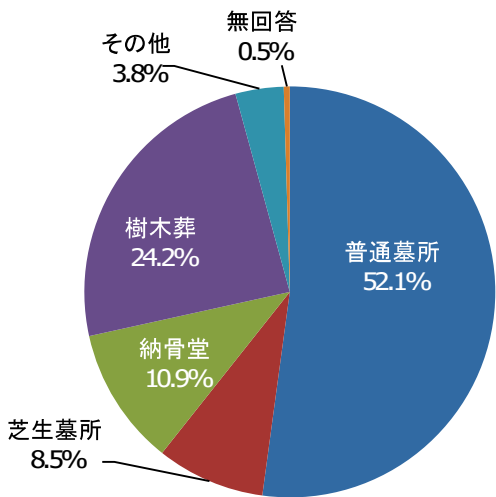
- 墓地取得の際の情報入手手段については、「インターネット」が約3割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育て・中高年では「インターネット」が、高齢者では「知人・友人」が最も多い回答となっています。

問4 墓地までの所要時間の許容範囲 (N=211)



- 墓地までの所要時間の許容範囲については、「30分未満」が約4割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者では「1時間未満」が、子育て・中高年・高齢者では「30分未満」が最も多い回答となっています。

問5 希望する墓地や葬法の形態 (N=211)

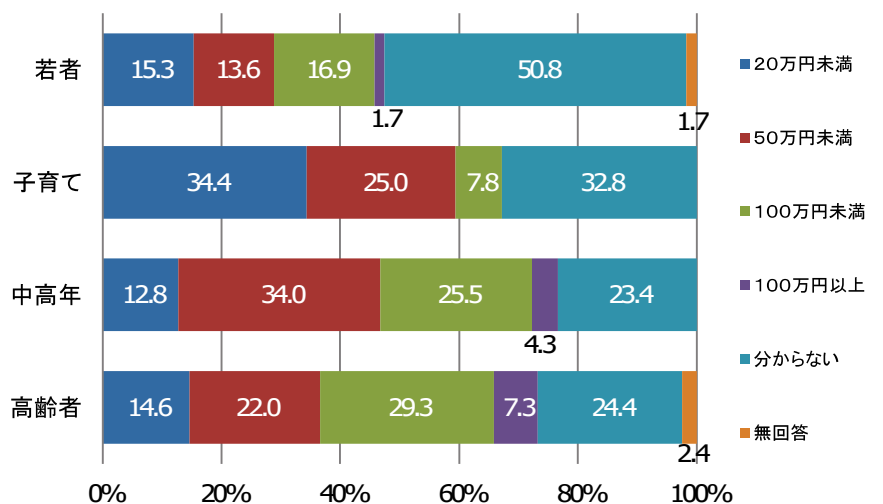
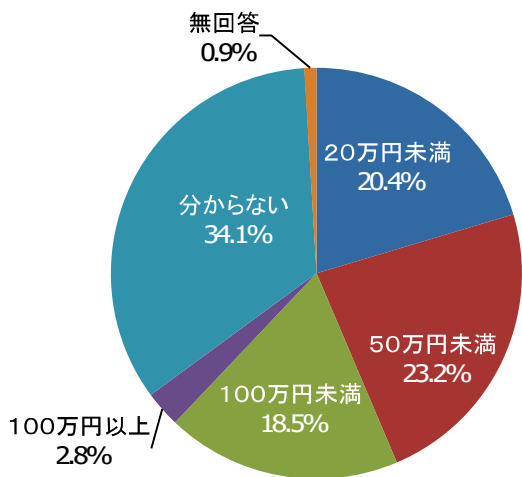


普通墓所 伝統的な形態の墓地
 芝生墓所 芝生で覆われた欧米風の墓地
 納骨堂 他の人の遺骨と一緒に埋葬する合葬墓
 樹木葬 墓石等を設けず樹木を墓標に遺骨を土中に埋める葬法

- その他意見
- ・永代供養
 - ・散骨
 - ・こだわらない
 - ・残された人が負担にならない形態

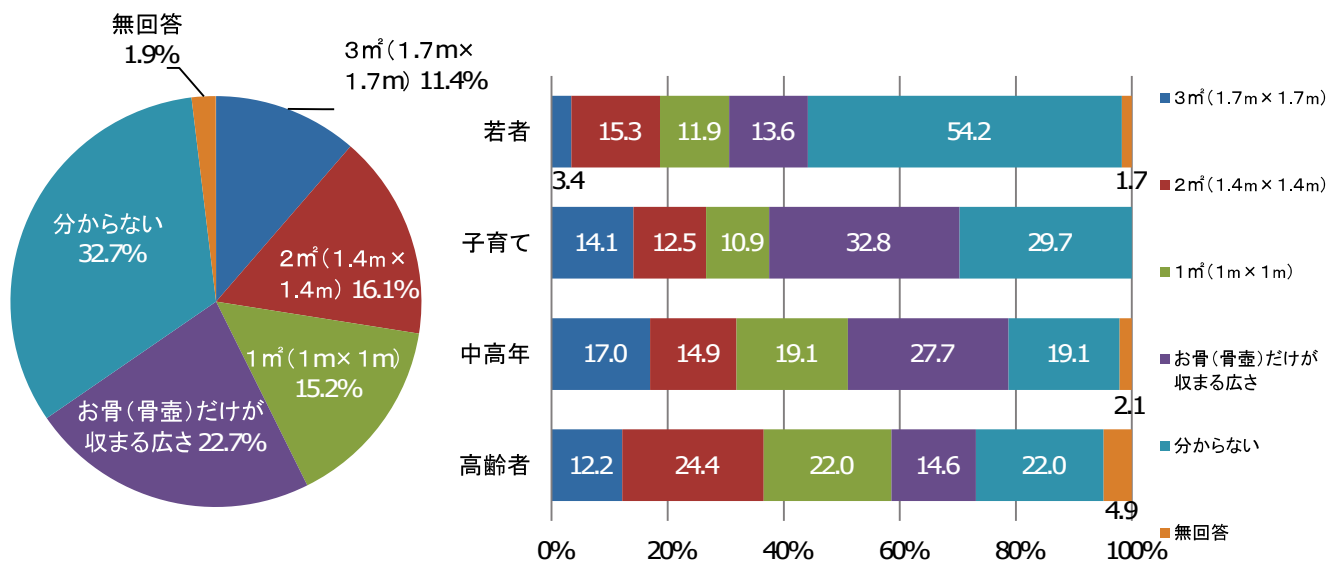
- 希望する墓地や葬法の形態については、「普通墓所」が約5割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「普通墓所」が最も多い回答となっています。

問6 希望する墓地の総取得費 (N=211)



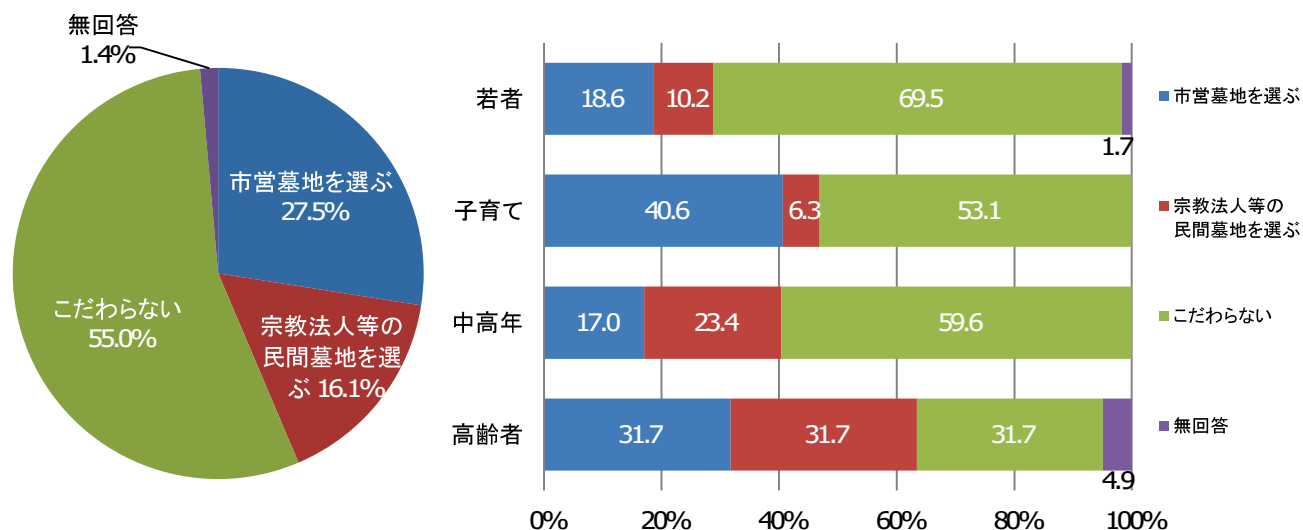
- 希望する墓地の総取得費については、「分からない」が約3割と最も多い回答となっており、次いで「50万円未満」が約2割となっています。
- 世代別にみると、若者では「分からない」が、子育てでは「20万円未満」が、中高年では「50万円未満」が、高齢者では「100万円未満」が最も多い回答となっています。

問7 希望する墓地の広さ (N=211)



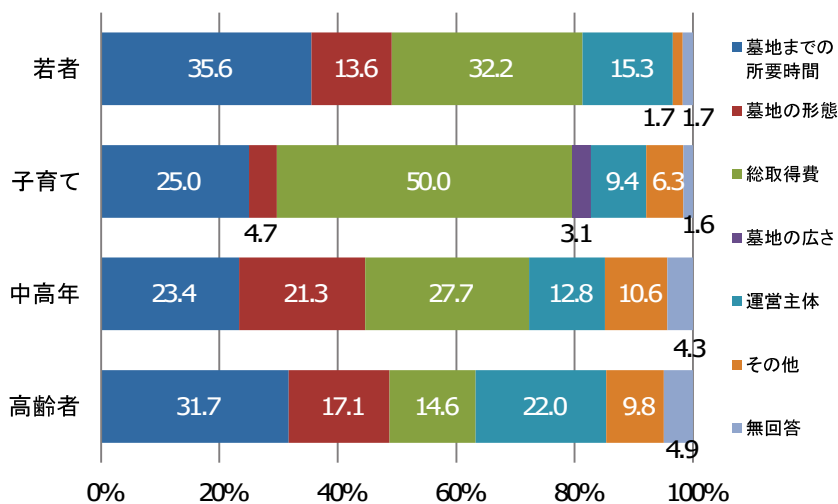
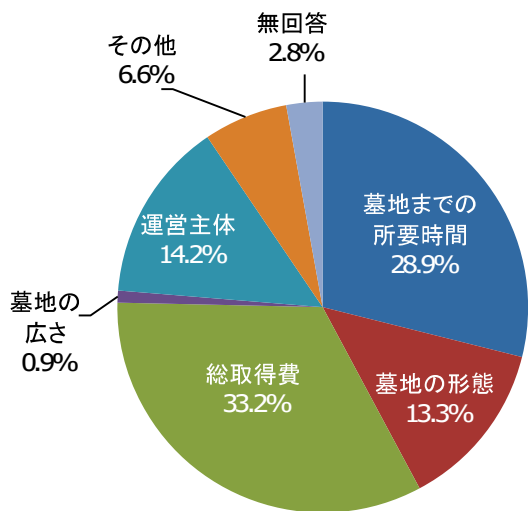
- 希望する墓地の広さについては、「分からない」が約3割と最も多い回答となっており、次いで「お骨(骨壺)だけが収まる広さ」が約2割となっています。
- 世代別にみると、若者では「分からない」が、子育て・中高年では「お骨(骨壺)だけが収まる広さ」が、高齢者では「2㎡(1.4m×1.4m)」が最も多い回答となっています。

問8 どの運営主体の墓地を選ぶか (N=211)



- どの運営主体の墓地を選ぶかについては、「こだわらない」が約6割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「こだわらない」が最も多い回答となっています(高齢者では「市営墓地を選ぶ」と「宗教法人等の民間墓地を選ぶ」も同率)。

問9 墓地取得の際、最も重視する点 (N=211)



■その他意見

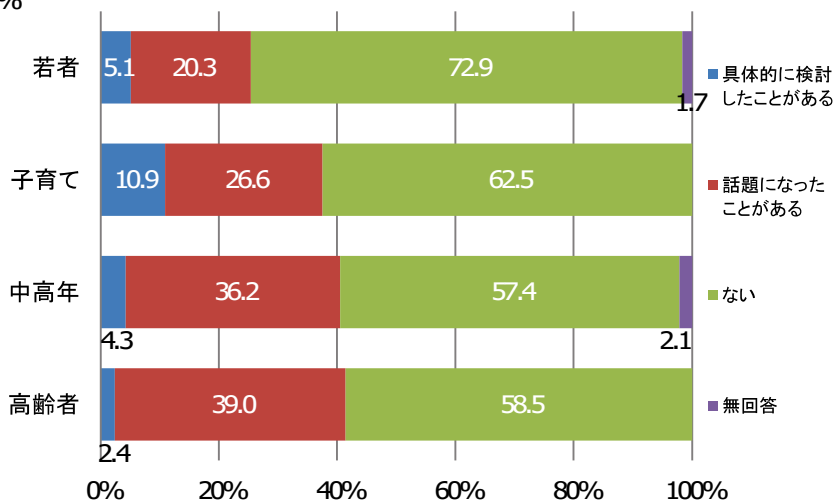
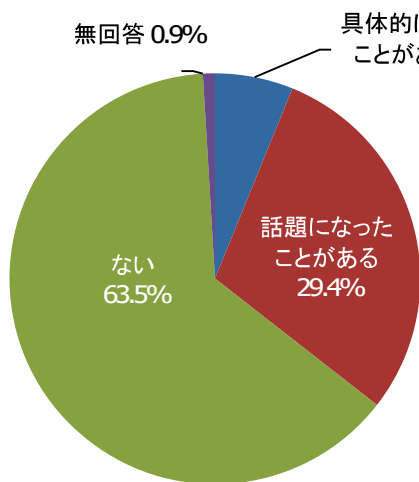
- ・維持管理の費用や方法
- ・取得の容易さ
- ・家族が負担にならないこと
- ・考えたことがない

■ 墓地取得の際、最も重視する点については、「総取得費」が約3割と最も多い回答となっています。

■ 世代別にみると、若者・高齢者では「墓地までの所要時間」が、子育て・中高年では「総取得費」が最も多い回答となっています。

問10 家族や親戚で墓じまい※が話題になったことがあるか (N=211)

※ 墓じまい: 所有している墓の後継者がいない、遠方のため墓参りができないといった理由で墓を処分すること



■ 家族や親戚で墓じまいが話題になったことがあるかについては、『ある』(「具体的に検討したことがある」と「話題になったことがある」の合計)が約4割となっています。

■ 世代別にみると、世代が高くなるにつれて『ある』の回答割合が高くなっています。